

# 【体育科】

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 運動に苦手意識がある児童も楽しく取り組めるように、運動の日常化やスモールステップで取り組める手だてを考えるなど、意欲を高める工夫を行った。その中でも、持久走カードや縄跳びカード、鉄棒カードなどは活動意欲の高まりにつながっていた。
- ボール運動では、シャトル投げ、ジャイロスロー等をたて割り活動を通して実施したことで、全ての児童に投げる機会を与えることができた。
- △その一方で、ボール操作の技能の向上や対話的な学びについての指導は改善する必要がある。
- 持久走タイムや駅伝の朝練習、持久走練習に、意欲的に取り組む児童が多かった。駅伝大会の結果からも練習の成果が見られた。また、苦手な児童も自分なりの目標をもって活動に取り組んでいた。
- 体力、食事、休養、睡眠の大切さについて児童への指導を図るとともに、保護者会などで情報提供をしたことで、児童の実態や意識の共有を図ることができた。

## 2 今年度の調査結果の分析と結果に基づく課題

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール操作やボールを投げる経験が足りない。ゲーム領域や投の運動の授業の様子からも児童の苦手意識が見られる。</li> <li>・健康な生活や安全については、理解できている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム力を高めるための効果的な練習や作戦などを考えることができている。</li> <li>・運動に関しては、技能を高めようと、練習の仕方を工夫することには個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら運動する児童と、運動に消極的な児童の二極化が見られる。</li> <li>・健康面では、食が細い児童、食べるのに時間を要する児童などいるが、食べようと努力している。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に苦手意識がある児童も楽しく取り組めるように、運動の日常化やスモールステップで取り組める手だてを考えるなど、意欲を高める手立てが必要である。</li> <li>・器械運動や陸上運動などの個人種目になると児童によっては消極的になることを改善させるため、グループで仲間の考えや取組を認め合う活動を促す必要がある。また、ICT機器や自分の課題解決のための練習の仕方を明確にした資料を提示することで、運動の知識・技能を高められるように取り組む。</li> </ul>		

## 3 授業の具体的な改善策

教科目標	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康の保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。</p>
全体	<p><b>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</b></p> <p>指導方法を工夫して児童に身に付けさせたい知識及び技能の習得を図りながら、児童に課題解決のための思考を深めるための発言を促したり、気付いていない視点を提示したりする。また、学びに必要な指導の在り方を追究し、課題解決の場を積極的に設定していく。</p>
<b>学年段階別改善策</b>	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あの動きを見に付けたい」という自分の目標とする姿を明確にもたせるために、教員の例示やICTを活用した手本となる動きを見せることで、何事にもチャレンジする気持ちをもたせるよう働きかける。</li> <li>・夢中で運動に取り組めるような教材を取り入れることで、休み時間や放課後にも児童が進んで運動に取り組めるようにする。</li> <li>・運動が苦手な児童も進んで運動に取り組めるような指導や学習カードの工夫を行い、「できた」という満足感が得られるよう見通しがもてる運動を行う。</li> </ul>
中・高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム領域では、練習の仕方や作戦などをグループで対話できる時間を十分に確保し、取組みに対して適切に価値付けをする。また、児童の実態に応じて、ゲームのルールを工夫することで、一人一人の運動の機会を保障する。</li> <li>・各学級で体育授業の導入で、主運動につながる補助運動を取り入れる。毎時間、補助運動を取り入れることで児童に獲得させたい動きが自然と身に付くように仕向ける。</li> <li>・体力、食事、睡眠の乱れが見られるため、必要に応じて個別に面談をする。また保護者会等で話題にし、家庭との連携を図る。</li> </ul>